

小豆島観光

まえがき

日本で最初にオリーブ栽培に成功したのは小豆島で、1908年。100年目に当たる今年「オリーブ百年祭」が行われている。

8月16日と17日、土日の休日を利用して和恵たちと一緒に小豆島を観光してきた。

小豆島は、朋男君は初めて。和恵は小学校の修学旅行、絹枝は大学するとき以来。私は皇踏山の落石対策の仕事で7年前に何度か来ている。

8時30分自宅を妻の運転で出発。杉井流で和恵たちを乗せて高松サンプートのフェリー乗り場へ。11時30分発土庄行きのフェリーに乗る。乗船時間は約1時間。

1日目には銚子溪、寒霞溪、道の駅小豆島オリーブ公園、エンジェルロード、2日目は二十四の瞳映画村、マルキン醤油記念館、道の駅小豆島オリーブ公園を観光した。

銚子溪

約500匹の野生のニホンザルがいる銚子溪自然公園に行く。以前、1度は来ていると思うが記憶にない。

小屋に入って中から猿に餌をやる。ほとんどの猿は猛暑を避け、林の中の日陰で蚤取りをしていた。

園内に「お猿の国の注意心得が書かれていた。「こわがるな、さわるな、のぞきこむな、上位に立ちきびしく対処しよう」



寒霞溪

寒霞溪は、大分の耶馬溪、群馬の妙義山とともに日本三大奇勝の一つに数えられている。火山活動で堆積した角礫凝灰岩が、度重なる地殻変動と水や風による侵食を受けて奇岩や岸壁をつくっている。

いつ来ても風が吹き抜けて涼しい。ベンチに座っていると、暑さを少しも感じない。



ロープウェイ乗り場から見た景色



火山活動で堆積した角礫凝灰岩



寒霞溪の展望台

エンジェルロード

小豆島国際ホテルの南側の海には弁天島,中余島,小余島,大余島が一行に並んでいる。引き潮になると海の中から白い砂浜の道が現れて四つの島を結び,歩いて渡れるようになる。天使の道,エンジェルロードである。

NHK 特番「これこそ!わが街元気魂」の地域のご自慢CM(2008年1月放送)で大賞を受賞。テレビ東京「出沒!アド街ック天国」(2008年3月15日放送)などマスコミで取り上げられたことから,いつのまにか人気の“観光デートスポット”になっている。

16時31分が干潮であったので,余裕を見て16時に行く。島で夢中になって遊んでいると,エンジェルロードが水没して帰れなくなるのではと想像していたのであるが,そのような心配はなさそうである。

エンジェルロードは思っていたよりも高く,海面より2~2.5mは出ていた。観光客を呼び込むために砂を運搬してきて人工的に造ったのではないかと思えたが,オーキドホテルのフロントの係人によれば,天然ということであった。満潮時には水没するようである。台風で海が荒れると砂が流されてエンジェルロードは消滅するが,潮の流れの関係で自然に復元されることであった。



エンジェルロード(小豆島観光ホテル HP より)



恋人同士,手をつないでエンジェルロードを歩けば,二人は将来結ばれる。私たちは将来どうなるのだろう。



波の浸食で岩ができた穴



磯にはイソギンチャク,蟹,貝が沢山いる

オーキドホテル

宿泊は、土庄港のフェリー乗り場のすぐ前にある鉄筋コンクリート造 9 階建のオーキドホテル。塩の湯と瀬戸内海の魚介類を使った料理は有名。私たちは 9 階のツインルームに泊まったが、広くてゆったりしていた。

夕食は 2 階の大広間と 1 階のレストランに用意されていた。私たちは 1 階のレストラン。グループによって料理は少し違っている。鯛のお造りが並んだグループもあった。

目の前に美味しそうな料理が並べられたが、腹の調子が悪くて食欲がない。妻の生ビールを一口飲ませてもらったが、全く美味しいとは感じなかった。料理は少し残しただけでなんとか食べることができたものの、お腹がキリキリし出したので、一人早めに部屋に帰って寝る。



宿泊したオオキドホテル(HP より)

二十四の瞳の映画村

10 時ホテルを出発。10 時 50 分に二十四の瞳の映画村に到着する。映画村の入口には記念撮影用にボンネットバスが置かれていた。

映画村は、昭和 6 2 年に田中裕子主演で製作された松竹映画「二十四の瞳」(にじゅうしのひとみ) のオープンセットを保存したもの。ギャラリー浪萬屋、和雑貨駕籠屋、土産物大正屋、甘味茶屋からかさ亭、よるず雑貨みさき屋など約 10 件の土産物屋、それに撮影用ボンネットバス、苗羽小学校田浦分校、松竹映画館、壺井栄文学館、二十四の瞳天満宮などの施設がある。

元々は、壺井栄の小説「二十四の瞳」を 1954

年に木下恵介監督が映画化。高峰秀子が扮する大石久子先生と、12 名の教え子とのふれあいの中に反戦のメッセージを描いた傑作。これが朝間義隆監督によってリメイクされた。

「二十四の瞳」は大東亜戦争に突入する前の時代を描いたものであるが、教室は 50 年前に私が勉強した本山町立木能津小学校(現在は保育園になっている)の雰囲気とよく似ていた。まるで 50 年前にタイムスリップしたようで懐かしい。

教室の前の窓側(左側)には、先生の机と椅子が置かれていた。先生の机の前に競って並んで九九を暗唱したこと、宿題のドリルに赤インクで三重丸をもらって大喜びしたことなど、低学年のときの光景が次々と思い出された。

校庭にでると、竹馬、自転車の車輪など当時の遊具が置かれていた。竹馬は小さい頃得意だったはずなのに思うように乗れない。和恵が最も上手であった。小学校の時に訓練したことを今でも体が覚えていたようである。

映画館「松竹座」では、「二十四の瞳」(監督：朝間義隆、主演：田中裕子)が常時上映されている。

壺井栄文学館では、生前の壺井栄が愛用していた調度品や各作品の生原稿などを展示してある。



映画村の入口のボンネットバス



撮影用に作られた分校の運動場の立て看板



懐かしい木製の机と椅子



映画村の中野土産物店



竹馬



1年生の教室と廊下



車輪転がし



1年生の教室と教壇



壺井栄生誕百年を記念した「せんせ あそぼ」の銅像。大石先生と12名の生徒がジャンケンをしている。後の建物は映画館「松竹座」



大石久子先生とジャンケンする朋男君

マルキン醤油記念館

マルキン醤油記念館は、日本5大醤油メーカーのマルキン忠勇株式会社が創立80周年を記念し、施設の一つを資料館として改装したものです。館内には醤油の製造工程のパネル展示や、醤油造りのために先人たちが工夫を凝らしたさまざまな道具類が展示されている。

記念館前の「物産館」には、小豆島ソフトクリームの元祖「しょうゆソフトクリーム」が販売されている。ここに立ち寄った主な目的は、これを食べるため。下痢をしている私以外は美味しそうに食べていた。



道の駅小豆島オリーブ公園

小豆島オリーブ公園には、地中海風のオリーブ記念館、サン・オリーブ館、ギリシャ風車など立派な施設がある。平成14年にオープンしたようである。

今年はオリーブ栽培から100年目に当たる。「オリーブ百年祭」と書かれたのぼりが公園内の道路脇に立てられていた。

サン・オリーブレストランで昼食をとる。



実を付けたオリーブ



古代ギリシャを思わせる白亜の建造物のあるふれあい広場



奥の白い建物はサン・オリーブ

